

質問	回答
1 NGOで女性として働くことでの、プライベートとの両立や、女性としてのキャリア形成で考えていることがあれば教えてください。	ライブ中継で回答済み
2 将来NGOや国際機関で働きたいと思っているのですが、新卒で入ることはなかなか難しいためファーストキャリアをどうすべきかについて悩んでいます。アドバイス等あればお伺いしたいです。	ライブ中継で回答済み
3 お忙しいところ貴重なお話をしていただきありがとうございました。 現在就職活動中なのですが、ファーストキャリアから国際協力に携わる魅力やメリットを教えてください。	ライブ中継で回答済み
4 国際協力をすると決めた時に取得した資格や学んだ語学、その他身に着けたほうが良いスキルや知識などありますか。	ライブ中継で回答済み
5 どうやってシエラレオネにいる人たちに教育機会を提供したのですか？学校を設立したり個別で家に訪問したりなど、具体的な方法を知りたいです。	<p>(下里氏) 10代のシングルマザーへの現金給付支援については、基本的には受益候補者へのアウトリーチをしております。シエラレオネにおいては、現金給付をベースとした社会保障制度がなく、前年度の世帯所得が把握できないという理由からです。そのため、誰がどんな経済状況か見極めることが難しく、本当に支援が必要な人を見つけ出すことが困難になっています。私たちは、教育省・警察・産婦人科などと連携して、受益者候補の10代のシングルマザーを見つけ出し、70項目以上の口頭ヒアリングによって、受益者を丁寧に見つけ出しています。支援には、10以上の条件があり、開始前には家庭訪問なども実施します。</p>
6 性教育を学校ですることを広めるよりこのように女性に第二のチャンスを与えるようなサポートをすることの方が現実的ですか。	<p>(下里氏) 私たちは、若年妊娠をし経済的に自力では学校に戻ることができない女の子たちに、現金給付による生活支援によって、もう一度復学できるチャンスを提供しています。また、同時に社会変容を促し、宗教的理由により男性優位の社会であるシエラレオネにおいて、同意のない性交渉による若年妊娠を防ぐため、ケネマ県のすべての学校で性教育プログラムを実施することを目指しています。</p>
7 教育へのメリットが浸透し始めたということでしたが、シエラレオネではどのくらい時間がかかったのでしょうか。	<p>(下里氏) 正確なデータで明らかにされているわけではないのですが、私の個人的な肌感ではありますが、内戦中の女性の一人当たりの出生率は7人を超えていましたが、医療関係者以外がお産の介助をしてはならないとなった2010年頃より、出生率が激減し、病院で出産する妊婦が増えていきます。その際に、女性にとっての妊娠は、人生最大のリスクであること（例えば5歳未満時の死亡率より、10か月間の妊産婦死亡率のほうが高い）、またそのころより、下痢性疾患や栄養不足による5歳未満時の死亡率が減少したことから、子どもを少なく産み、一人当たりの現代教育への投資を大きくすれば、その後に経済活動に参加したときの、経済的リターンが大きくなるという考えから、子どもへの教育メリットが浸透していったと思われます。</p>
8 国際協力に関わる職につきたいと考えています。NGO職員として働くことの魅力は理解しました。JICAで働くこと、開発コンサルタントとして働くこと、NGO職員として働くことの違いや、比較したうえでの魅力をもう少し詳しく教えてください。	<p>(下里氏) JICAや開発コンサルティング企業で働いたことがないので、イメージがつきにくいのですが、私の場合ですと、シエラレオネ共和国という国に関心があり、生涯かけて関わりたいくらい大切な国です。そのため、任期・任地がなく、専門的に携わっているNGOで働きたいと考えていましたが、なかったので自分で作りました。</p>

	質問	回答
9	とても貴重なお話ありがとうございました。資金の支援でなぜ電子マネーを活用しようとしたのでしょうか？	<p>(下里氏) 私たちは、現金の給付を主な支援としておりました。その際に、インフレにより預金を引き出すと、銀行の窓口で大量の札束を受け取らなければならないこと、銀行職員が引き出しの際にそもそも数え間違えをしてしまうことなどの人為的な問題がありました。給付の際の数え間違いを防止すること、スタッフの不正を防止すること、受益者がオフィスまで受取に来る際の事故を防止することなども、メリットとして考えています。受益者が電子マネーを扱えるようになれば、貧困により銀行口座を開設できなくても、携帯電話のSIMの中に貯蓄ができます。（スマホでなくても格安の通話だけできる携帯電話で電子マネーが扱えます）電子マネーにより毎月少額の給付が実現しましたが、将来的には、電子マネーを何に利用したかも、把握できるよう体制を整えていく予定です。</p>
10	杉山さんに質問です。必ずしも自分が望む分野や地域にぴったり当てはまる団体に働くことができるとは限らないと思うのですが、どのような判断基準でキャリアを選択するべきか、ご意見をお聞きしたいです。	<p>(杉山氏) 職種、という意味では希望していたものにつけなくても、その中で自分の心が揺さぶられるものがある、自分自身のやりたいことができるかという点は大事ですし、それはそこまで難しくないかと思えます。所属する団体や会社単位でのアプローチの仕方は違って、自分自身がしっかりと核を持っていれば、何をしてもそうした理想に近づくのではないのでしょうか。また、今は仕事以外のところで自己実現をすることはできますし、必ずしも職場の中のみでキャリア形成をしなければいけないということはないかと思えます。</p>
11	杉山さんに質問させてください。定年後のセカンドキャリアとしてNPOへの転職を考えています。海外経験はあるのですが60歳を超えたおじさんにもチャンスはありますか？	<p>(杉山氏) あくまでも弊団体の話ですが、定年（60歳）が設けられているため、正規雇用は難しいのが実状です。ただ、有期雇用契約を結んだり、顧問・業務委託契約を結んだりされた方はいますし、今でも海外事業地で活躍されています。団体にもよりますが、雇用の形態を考えなければチャンスはあるのではないかと思います。</p>
12	杉山さんにお伺いします。ジャパンハートの活動に、SDG5ジェンダー平等の推進も入っていたと思いますが、SDG5との関連はどのような活動になるのでしょうか。	<p>(杉山氏) 例えばカンボジアでは、周産期医療事業を通じて女性の健康を守る活動をしております。また、ミャンマーでは、人身売買のリスクのある子どもたちを、養育施設で受け入れています。やはり女の子がその被害にさらされるケースも多いため、そういった意味ではジェンダー平等に向けた取り組みの1つであると考えています。 さらには、女性職員が活躍している場としても顕著な数字がでておりますため、女性の活躍推進にも寄与していると自負しております。</p>
13	NGO、NPOは新卒で入ることは難しいと聞きますが、新卒でも採用してもらえる方法他にありますか。	<p>(下里氏) インターンなどで団体との関係性を持ち、教えられた業務をしっかりとこなすことができれば事務局スタッフとして雇用されるということもあるかもしれません。また、現地滞在経験があり（2,3カ月）英語力を持ちであれば、駐在員として採用、ということもあり得るかもしれません。</p> <p>(杉山氏) 1番あり得る可能性としては、その団体の学生インターンを行って、見初められるということかと思えます。あとは通常通り新卒を採っている団体にアプローチする方法があるかと思えます。</p>
14	民間企業とNGOの関わり方について教えてください。民間企業からの寄付以外にも、例えば企業のCSR活動のサポートを行う事などはあるのでしょうか。	<p>(下里氏) 企業のCSR活動のサポートをする等の活動は今のところはしておりませんが、私たちは企業さまからマッチングギフトの形で助成をいただいたり、ランディングページの作成を無料でしていただいたりなど、様々なサポートをいただいております。</p> <p>(杉山氏) はい、ございます。企業様が、社員に社会貢献活動をさせたいからということで、ボランティアを行ってくださっているケースもあります。CSR活動がしたくても何をしたいかわからないという企業様もいらっしゃるの、自ら発信して、そういった場を提供することも私たちの役目だと思っています。</p>

	質問	回答
15	NGOで働く際の給料体系、働きやすさなどを伺いたいです。	<p>(下里氏) NGOでは女性の平均給与が他業種と大差ありません。ハラスメント防止ポリシー等さまざまな国際基準に則った規定や、職場内での心理的安全性をもったコミュニケーションなど、他業種と比べて女性が働きやすい環境と言えるのではないのでしょうか。また、NPOの正職員給与は確かに他業種と比べると低いのですが、NPOで働きながら副業もする、逆にNPOでフリーランスのような形で関わることで、給与を上げていくことも可能です。</p> <p>(杉山氏) この辺は団体によって違いが大きいと思いますが、やはり年収で見たときに、例えば東京都の平均年収に達しているかと言われると、そうではないところが多いかと思います。やはり管理費よりも事業費に充てるお金が大きいため、給料はそんなに良くはないのが事実です。ただ、「NPOなのに高い給料をもらうことは悪だ」というような考えが業界の中にあるとは思いません。どの団体も基本的には、働きやすさという面でも改善を図りたいと考えているのではないのでしょうか。</p> <p>そういう意味では、例えば育休がしっかりとれるだとか、フレックスや在宅といった勤務体系の導入なども進められているので、働きやすくなっているとは思いますが。それでも、1人に対する業務量が多いのは事実です。その業務が社会をよくすることに繋がっているとイメージ出来る人でないと、なかなか続けることは大変かもしれません。</p>
16	現在、私は国際協力に携わりたいという思いはあるものの、どのように関わりたいかが未だに定まっていません。どのように関わるか決めるためには何をしたり、どのように情報収集をしたりすればよいかアドバイスを頂けると幸いです。	<p>(下里氏) JICA PARTNERSからのメール、国連フォーラムや、JANICの採用情報の掲示板などに情報がありますので、逐一チェックし、インターンやアルバイトなどを募集していなくても、まずはボランティアとして活動できるかどうか、問い合わせたりして、実際に活動に参加してみるのはいかがでしょうか。インターン募集をしていないのに、連絡をしてくる方の熱意はさまざま、そういった方をスケジュールに関係なく採用とすることもあります。</p> <p>(杉山氏) 少しそれた回答になるかもしれませんが、とにかく実体験を増やすしかないと思います。なお、この実体験には、人の話を聞いたり、映像を見たりということも含まれますが、やはり自分で経験するということが重要だと思います。</p> <p>国際協力したいけど何をしたいかわからないというお声はよく聞きますが、結局のところ自分の心が揺さぶられたことをする以外にはないと思います。待遇もそこまでですし、正直激務とも言える中で、自分自身がやりたいと思っていることでなければ続けられません。そういう意味では、自分自身の心が動かされるものがなければ、無理してこういう業界に飛び込む必要もないですし、それでもやりたければ、まずはなんでもいいからやってみて、その後本当にやりたい分野を考えるとということでもいいのではないのでしょうか？</p>
17	8月から留学するため、オンラインでインターンできるNPO、NGOを探しています。やはり難しいのでしょうか。	<p>(下里氏) 私たちアラジはオンラインでできるインターンを募集しております。日本時間の10時～17時の間に、1日4時間以上、ネット環境がよい場所で、ご参加いただくことが条件となっております。3カ月間のボランティアベースのインターンで、24回までの参加をお願いしております。また、PC能力・英語力により採用の判断を行っており、事務局出勤のできるスタッフよりも、採用条件が厳しくなっております。</p> <p>(杉山氏) 弊団体では以前に遠隔インターンを採用していました。現在はニーズがないために行っていませんが、同様に行っているところもあるかと思っておりますので、必ずしも無理ではないと思います。</p>

※当日いただいた質問から一部抜粋して回答しております。